

26 章をみると、イサクはアブラハム以上の祝福を得たことがわかります。それほど主に喜ばれたイサクの生き方とは一体どのようなものだったのでしょうか。今日はイサクを通して、「祝福を得る秘訣」を探っていきたいと思います。

1. 祝福が届く場所に留まる

イサクは、カナンに住んでいましたが、ある時飢饉が起こり、食べ物がなくなってしまうました。創世記 12 章 10 節をみると、父アブラハムも飢饉にあい、エジプトへ下ったとあります。そこでイサクも父と同じようにエジプトへ行こうとして、ゲラルという町に来ました。しかし主はイサクに 2 節「エジプトへ下って行ってはならない。わたしが命じる土地に滞在しなさい。」と、エジプトへは行かず、カナンに留まるように命じたのです。

では何故主は、エジプトへ行ってはならないとイサクに命じたのでしょうか。エジプトはファラオと呼ばれる王が支配しているところです。出エジプト記には400年もの長い間、奴隷となって苦しめられてきたイスラエルの民が、モーセによってエジプトから脱出する様子が書かれています。このように聖書で語るエジプトは罪に支配されているところです。そこは神さまの祝福が届かない場所なのです。祝福が届かない場所では、神さまを見ることもできず、またみ声を聞くこともできず、神さまを思うことさえないので。

コリントの信徒への手紙一 2 章 9 節にはこうあります。「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかつたことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」

神さまは御自分を愛する者たちにカナンという約束の地を準備されました。今、イサクがいるところは、主が約束された場所なのです。カナンは主の祝福が届く場所です。何故なら、そこには主が共におられるからです。主はイサクを祝福するために、エジプトではなく、カナンに留まるように言われたのです。

イサクは主の命令に従い、ゲラルに住みました。すると 12-14 節「イサクがその土地に穀物の種を蒔くと、その年のうちに百倍もの収穫があった。イサクが主の祝福を受けて、豊かになり、ますます富み栄えて、多くの羊や牛の群れ、それに多くの召し使いを持つようになった」のです。

カナンは主がおられるところ、そして百倍もの恵みが備えられているところなのです。

では私たちにとっての約束の地カナンとは一体どこでしょうか。教会はキリストの体です。そしてイエス・キリストを主と告白する者はすべてキリストの体である教会に属しています。ですから私たちは毎週、教会で礼拝を捧げています。またイエス・キリストはマタイによる福音書 18 章 20 節で、「二人または三人がわたしの名によって集まる所には、わたしもその中にいるのである。」と言われました。教会につながり、教会の中にいること、互いに交わりをすること、祈りの輪の中にいること、それらはすべて、私たちにとってのカナンではないでしょうか。 私たちがカナンに留まるとき、主は百倍の収穫を私たちに与えてくださいます。ですからその恵みを共に受け取っていただくではありませんか。

「祝福を得る秘訣」とは、祝福が届く場所に留まることです。

2. 争いを避け、平和を求める

カナンの地にはもともと、たくさんの先住民がいました。その一つであるペリシテ人は多くの富を持ったイサクを妬むようになりました。15 節には「ペリシテ人は、昔、イサクの父アブラハムが僕たちに掘らせた井戸をことごとくふさぎ、土で埋めた。」とあります。ペリシテ人の王アビメレクは争いが起きないよう、イサクに今いる場所から出ていくように頼みました。そこでイサクは多くの召し使いや家畜と共に、今度はゲラルの谷に移ったのです。

そこでもイサクは井戸を掘り返し、豊かな水を得ることができましたが、今度はゲラルの羊飼いたちが井戸は自分たちのものだと言い、イサクは別の場所に移って、また新しく井戸を掘り始めました。しかし再びペリシテ人が奪い取ろうとしたので、イサクはそこを去り、また別の場所に移って井戸を掘ったのです。そうしてようやく争いはなくなりました。

何故イサクは何度も何度も井戸を奪われたのに争いを避けて身を引いたのでしょうか。それはイサクが父アブラハムと同じように、自分が旅人であり寄留者であることを心に刻んでいたからです。旅人はこの世で自分の欲を満たすことに目を向けるのではなく、永遠の命がある御国を目指していくのです。ですから旅の途中のは争いは避けなければなりません。 アビメレクは争いを避け続けたイサクと平和の契約を結ぼうとしました。異邦人であるアビメレクも、イサクと共におられる主を見ることができたからです。争いを避け、平和を求めることは、まだ神を知らない人々が神を知るときになるのです。

ペテロの手紙一 3 章 9 節「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。」戦いを挑む者のために祝福を祈ることは、主の約束を与えられた者の使命です。主は、敵のために祝福を祈り、行う者を豊かに祝福してください。

「祝福を得る秘訣」とは争いを避け、平和を求めることです。

3. すでにある祝福を受け取る

井戸には豊かな水がありましたが塞がれ、水は隠されて外から見ることができなくなっていました。しかし目にはみえなくともそこを掘り返せば豊かな水を得ることができました。

イサクが受け取った豊かな水は、父アブラハムに与えられたものでした。ですからイサクが得た祝福は、すでに父アブラハムに与えられた祝福だといえるでしょう。このように、主がすでに用意されている祝福を受け取ることが、信仰の継承ではないでしょうか。信仰生活はゼロからのスタートではないのです。

昨年からのコロナ危機は私たちの信仰生活に大きな影響を与えています。教会に行きたいのに行けない。皆さんと一緒に食卓を囲みたいのにそれができない。顔と顔を合わせて祈り合うことも自由にできない。このような思いもよらない困難に直面したとき、私たちは一体どのようにして乗り越え、自分の信仰を守っていけばいいのでしょうか。

コリントの信徒への手紙二 4 章 18 節「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

長崎教会にはすでに主から与えられている素晴らしい祝福がたくさんあります。その祝福を受け取ることによって、私たちは見えない主を見ることができます。主の声を聞くことができます。主の御手を感じることもできるでしょう。自分の信仰は今どのような状態なのか、もしわからなくなったら、ぜひ教会に来て、主があなたのためにすでに用意されている祝福をいただきましょう。

「祝福を得る秘訣」とはすでにある祝福を受け取ることです。

イサクは与えられた主の約束を信じ、その約束に留まり続けました。そのことによって、イサクは信仰の継承という大きな使命を果たすことができました。そして、主ご自身もまた約束した通り、いつもイサクと共におられました。「主がいつも私と共にいる」ということこそ、私たちにとって、最も豊かな祝福ではないでしょうか。

さあ、私たちもイサクのように主の約束を握って、主と共に恵みの中を歩いていきましょう。